



西照寺寺報「さいしょう」 第48号

2025年7月20日

発行 浄土真宗本願寺派 西照寺
高岡市吉久2丁目4-40

郵便振替口座 00780-8-8185 西照寺
西照寺WEB <http://nisitera.eek.jp>

祠堂永代経 勤修

左記のとおり今年度の祠堂永代経をお勤めいたします
お参りくださいませ

おつとめの時間

八月二十四日（日）午後二時〜

二十五日（月）午前九時半〜

布教使 岡西好持師 本願寺派高岡教務所主幹

西谷山 西照寺

この仏事は、ご先祖を大切にしのぶ皆様の御懇志によって営まれています。

西照寺郵便振替口座などご利用頂ければ幸いです。



ビハーラ活動

今日では、殆どの方が終末期(死)を病院や高齢者福祉施設などで迎えられるようになりました。

そこに宗教者が常駐関与することは、キリスト教系病院以外では有りませんでした。平成二十三年の東日本大震災を契機に、被災地や医療機関、福祉施設などで、苦悩や悲嘆を抱える方々に寄り添い、心のケアを提供する宗教者が必要ではないか。特定の布教伝道を目的としない「臨床宗教師」の養成が東北大学ではじまり、いくつかの大学でもその養成がはじめられ、一般の病院にも徐々に派遣されるようになってきました。

キリスト教系の病院には、常駐のチャプレン(神父や牧師など)がいますが、従来は居なかつた仏教系の病院にも徐々に宗教者(僧侶)が配属されるようになってきました。

西本願寺では、昭和六十二年から「仏教徒が、仏教・医療・福祉のチームワークによって、支援を求めている人々を孤独のなかに置き去りにしないように、その心の不安に共感し、少しでもその苦悩を和らげようとする」、ビハーラ活動が始められています。

「ビハーラ」とは、古代インドのサンスクリット語で、「心身の安らぎ場所」というような原意で、昭和六十年に田宮仁氏が「仏教を背景としたターミナルケア(終末期医療)施設」の呼称として提唱されたものです。西洋に於けるホスピス(終末期患者の緩和ケア)にあたります。

このビハーラ活動を実践するため、平成二十年に京都にて「あそかビハーラクリニック」が開設され、後に関係の深い財団が母体と成って、平成二十六年には、入床者を受け入れる終末期緩和ケアの「あそかビハーラ病院」として新たに開所されています。

以前、そこで常駐活動をされている僧侶(ビハーラ僧)をお呼びしてお話を伺ったことがあります。

その折りに、二人の患者さんのことを紹介されて行かれました。

お一人は、四十六才の独身女性の方で、胃がんが全身に転移して、本願寺のビハーラ病院に転院されてこられた方です。ここで、自分自身の命を終えていく部分も含めて救いというのがある。そう教えてくれた僧侶に出会えたことがうれしかった。

「病気になってから毎日毎日幸せをかみしめて生きている。

毎日毎日誰かに幸せをもらって生きています」と言われていた。亡くなるまで様々な方に感謝の手紙を書かれていたそうです。

「しあわせは人からいただくもので、自分一人だけで幸せを作り出すのは難しい。周りの人たちの支えというものの中で感じられていくものなのでしょう。我々は生かされている存在である。そういうことを仏教は教えてきました。そのことに気づかされたら、ありがとう、幸せだという人生が開けてくることをこの方に教えていただいたように思います。

もう一人は、五十四才の男性の方です。やはり癌の末期、車椅子で入ってこられた。看護師が車椅子を押そうとする、自分で出来ることは自分であるからと言い、手でタイヤを回して動かしておられた。人に迷惑はかけたくない。ここまで自分の甲斐性で生きてきたという意識の強い方だったようです。

ところが、その方も最後は全くトイレにも行けず、寝たきりになりました。

「おむつ」を看護師さんが交換に来られる。

「ごめん、ごめん、こんな汚い仕事をしてもらって、迷惑かけて、すまん、すまん」と謝られる。

すると看護師さんは、「ごめんと言われたら悪い事をしていくみたいで心がつらいから、言い方を変えてもらえないでしょうか」

「それなら、どんな言い方がいいのですか」

「そうですね………………。ありがとうの方が」

それから、その男性は「ありがとう」というようになり、全てのことを素直に任せられるようになって行かれたそうです。自分のことは自分でするのが当たり前、自分一人で出来ていと思うと「おかげさま」が見えてきません。

この男性は、病気になって、人生、すべてはありがとうと言える人生であった。看護師さんのやってくれていることを「ありがたい」と受け取れるようになった。人生はすべて「おかげさま」の中で積み重なってきたなあと、気づけたことがうれしかったと言っておられたそうです。

お互いがお互いのことを自分のことのように思い合い、支え合う中に本当の人間らしい関係がある。その関係の広がる社会を願うのが、念仏者の生き方ではないかと、改めて気づかされたことでした。

合掌

(文責 前住職)

西照寺鐘樓堂修復完成奉告法要

昨年来修復が進められておりました工事が、本年三月に完了いたしました。

本鐘樓堂は、重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）の特定物件に指定されました。高岡市の補助、並びに西照寺門信徒、吉久地区、関係各位さまのご懇篤なるご支援によって成し遂げられたものです。

過日六月二十九日に、西照寺総代役員、関係各位さまお集まりいただき、西照寺鐘樓堂修復完成奉告法要を勤修させていただきました。

これも偏に門信徒、並びに関係各位さまのご尽力の賜と、ここに深く感謝申し上げる次第であ



ります。

今後、この鐘樓堂の梵音遍く響流して、弥陀大悲招喚の教勅を多くの皆さまにお伝できますよう、精進を深めていく所存であります。合掌

